

消費者ネットワーク

2005年12月1日

第102号

全国消費者団体連絡会
発行責任者 神田敏子

TEL : 03-5216-6024

FAX : 03-5216-6036



消団連とこのごろ



くらしの安全を脅かす大きな問題がまた発覚した。建築基準法違反・耐震強度の偽造事件である。震度5強の地震で大きな建物が倒壊する可能性があるというのだから、ひどすぎる話だ。数年前、韓国のデパートが粉々に崩れ落ち、多くの人命を奪った事件が思い出される。あれはよその国の出来事で、日本では全くありえない話だと、あの時誰もが思っただろう。地震の多い日本では、耐震対策だけはしっかりしているはずだと、変な確信のようなものがあった。それだけに、震えるほどの怒りがこみ上げてくる。

この問題の本当の責任はどこにあるのだろうか。姉齒という悪徳建築士だけの問題ではないだろう。徹底したコスト削減やスピードの追及が、骨組みや土台など重要な部分のコストカットにつながった可能性は高い。広さと見掛けのよさと安さを売りにした建築主にも大きな責任があるように思える。そして、偽装が見抜けなかった検査会社の責任も非常に大きいといわざるを得ない。

建設確認をしたのは国が指定した機関である。国の責任も問われるのではないか。本来なら公的に行うべきものを民間に委ねているのだから、監督やチェックは責任をもって行うべきである。報道によると、建設確認機関のイーホームズは、実質的審査を行っていなかったことが分かった。また、審査担当官全員が役所などで建築確認業務に携わったことのある元職員だという。そこにチェックの甘さはなかったか。違反を見逃した原因や偽造の構造をしっかりと検証する必要がある。

このところ、安全性を犠牲にしてでも利益を得ようとする事件が相次いでおり、日本も危機的状況である。今、何でも民間に委ねる傾向にあるが、その限界をこの事件が示しているようにも思える。委ねたほうがよいことも、確かにたくさんあるだろう。しかし、直接命に関わるような重要な事柄については、むしろ行政がもっとしっかりと携わるべきではないか。全面的に民間委託できるほど、まだそこまで日本の社会が成熟しているようには思えないからである。

もくじ

消団連とこのごろ	・・・p.1
第44回全国消費者大会が 11/16～17開催される	・・・p.2
食品安全委意見交換会報告	・・・p.8
米国・カナダ産牛肉等についての食品安全委員会 プリオン専門調査会の審議結果(案)を受けて	・・・p.9
ISO(国際標準化機構)	・・・p.10
会員の活動紹介・「たべる、たいせつフェスティバル」の開催概要	・・・p.11
12月の会員の活動予定	・・・p.11～12
編集後記	・・・p.12